

①本園の教育目標

たくましい体、豊かな心、伸びる知能
 全人教育（調和ある人格）を理想とする保育運動（ムーブメント）教育を軸として

- 1. 子どもの主体性、自発性を大切に、身体の機能を育てる保育
- 2. 子どもの身体の動きを通して、知覚能力や情緒、社会性を育てる保育
- 3. 認知能力、創造性の発揮に通ずる人間の基礎づくりの保育
- 4. 子どもが喜び、満足感、達成感を持ち『幸福』を感じる保育

②評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組状況
1	子どもの主体性、自発性を大切に、身体の機能を育てる保育	3.57	主体性・自発性を育てるために、こどもが「やりたい」と思っていることを出来るだけ叶えている。
2	子どもの身体の動きを通して、知覚能力や情緒、社会性を育てる保育	3.46	社会性を育てる部分では、様々な活動を通し物事への責任感を持ち進める事やルールを守り取り組むことの大切さなどを感じれる様に伝えながら進めてる。知覚能力の部分では、活動を行っていく上で五感が上手く使いながら進めている。情緒の部分では、物事に取り組んでいく事で喜びや悔しさなどを感じそれを糧に今後活動ができるよう声をかけるようにしている。
3	認知能力、創造性の発揮に通ずる人間の基礎づくりの保育	3.14	子どもたちの創造性、イマジネーションを広げていくために、製作活動では正解不正解はないということを伝えている。
4	子どもが喜び、満足感、達成感を持ち『幸福』を感じる保育	3.54	子どもが喜んで新しいことに挑戦しようと思えるように前向きな言葉がけをし、失敗しても大丈夫と励まし次も頑張ってみようと思えるよう自信を持ち満足感を得られるようにしている。

評価（5…十分に成果があった 4…成果があった 3…少し成果があった 2…変わらない 1…成果がなかった）

③総合的な評価結果

評価	理由
B	教育目標に対し、平均値を超えることができたが、改善の余地が多く見られる。保育者個人のスキルアップと実体験が必要であり、目標を根底に進めるよう指導していく。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

④今後取組む課題

	課題	具体的な取組方法
1	愛される園づくり	子ども達が生き生きとした表情で園生活を送ることが愛される園だと思う。保育者との良好な関係作りがまずは、第一だと考える。
2	信頼される園づくり	子ども達の発達に合わせた保育を心掛けながら、その子の成長を保護者に伝え、保護者と喜び合いながら、密なコミュニケーションを取る。
3	子どもの満足感・達成感の向上	子どもが自分からやりたいと思える活動をしていったり、一人一人が達成感、満足感が感じられるような取り組みを出来るような活動を心がける。
4	保護者の満足感の向上	子ども一人一人の日々の園での様子を細かく伝え、できるようになったこと等子どもたちの成長と一緒に喜べるような関係性を築いていく。また、伝え方も意識して誤解を招くような表現は避け、伝えたいことがストレートに伝わるよう注意していく。

⑤学校関係者評価委員会の評価

- ・子ども達の意見を尊重し「やりたい」「やってみようかな」という前向きな気持ちを大切にしてくれたおかげで、いろいろな事に挑戦している様子を保育士さんとの毎日のやり取りで感じられた。
- ・保育士さんと子ども達のコミュニケーションがしっかり取れていることで、信頼関係が築けていると感じる場面がたくさんあった。
- ・いろいろな考えの保護者がいる中で、園としての方針や理由などをその都度はっきりと説明し、お互いが納得することで理解も深まり、より良い環境、雰囲気子ども達の成長を見守っていけると思う。